

“計画停電やデマンド低減に関する重要なお知らせ”

東日本大震災の一日も早い復旧、復興が出来ますことを心よりお祈り申し上げます、弊社でも東北地方で数社の代理店の方が被害に合わせ、5月の連休にお見舞いに参りました。

現地は大変でありまして、手の付けようがないと言うのが現状で御座います、取り分け福島県の皆様は家が有りながら、避難を強いられ、そして又仕事も手に付かず、困っておられます。

東京電力は全国の35%の電力供給を致しておりますが今回の原発事故で30%の電力供給を失いました。そして昨今中部電力が浜岡原発を2年間防潮堤完成まで停止で日本の発電量合計で13%の節電が全国民に強いられております。

原発の良し悪しは別として、電気の需要は毎日、毎月平均的でなく、夏場の真昼2時～4時の冷房電力が一時的に不足する為、約31%の原発が使われているのです。深夜になりますと大きく余ってまいります。

将来的には蓄電技術が良くなりますと、解消できると思っております。然しながら現在の技術では、今一で御座います。弊社は早い時期から自然エネルギーへの変換を提案いたしており、何と言いましても太陽光の利用であり、地熱の利用とか、あまたの発電方式があります。そして国民は全戸太陽光発電で生活をして、電気器具も100V直流にして、自給自足の生活を、竪穴式文明が2万年続きましたように、地熱利用であります。

さて、提案で御座いますが、弊社は37年間防水工事や塗装工事一筋に営業を行ってまいりました、防水の保証先は10000件を超えまして、お蔭様で売り上げ規模だけは福井県ナンバー1になりました。10年前より防水、塗装のお仕事を通じて、単なる防水や塗装だけではなく、差別化ができて、そして何よりもお客様に喜ばれる、施工が出ないかと、全国的に珍しく、工事屋が研究部門を持ち、工事屋ならではの研究開発に取り組んでまいりました。

開発できましたのは、愛知万博でお馴染みのシポフェースやガードフェース、そしてサンフェースに成りました。この商材はまさに魔法の材料でありまして、施工費は掛かりますが、一度施工いたしますと、夏は遮熱になり、冬は断熱となります。

✿計画停電とデマンドの低減には最高の商材とご提案申し上げます。✿

経営者の皆様これから暑くなりますとデマンドが心配ではありませんか。施工後屋根表面温度が25～30度低くなります、折半屋根を夏場に裸足で歩けます。(4～5年で回収)

シポフェース・・・建物の壁や屋根に施工——遮熱、断熱、消音、長期耐久性、防水

ガードフェース・・・建物の窓やドアに施工——遮熱、断熱、紫外線カット、結露防止

サンフェース・・・建物の壁や屋根に施工——軽量、長期耐久性、断熱、防水

弊社は日曜祭日もお客様からのお電話に対応出来る様に営業マンがお待ちしておりますので、お気軽に御連絡下さい。

フリーダイヤル 0120-25-1181

支援のひろば

がんばろう日本!

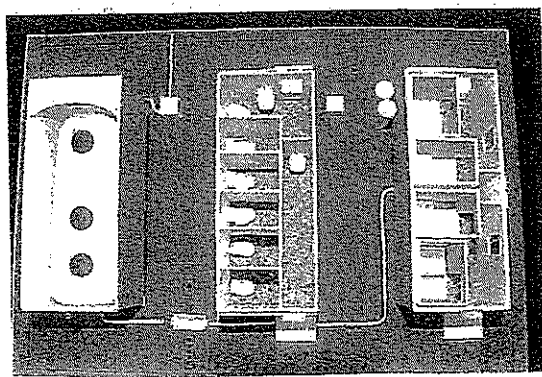
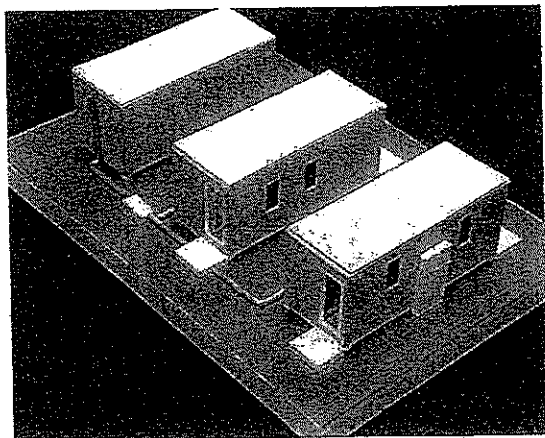
マンパワー



ボランティア・インフォメーションセンターの開設準備を進める兵庫県職員ら—仙台市泉区（ひょうごボランタリープラザ提供）

ンセンター」を設置する。阪神大震災ではボランティアが集まり過ぎた避難所があった一方、人手が足りずに困ったケースもあり、激震地の入り口で避難所や被災状況の情報を伝えることでマンパワーの一極集中を防ぐ「交通整理」の役割を担う。

センターは、宮城県内の激震地への陸路の入り口に設置、料金所の職員用休憩所だった施設を活用する。ゴールデンウィーク（GW）を利用して被災地支援に向かうボランティアが急増すると予想されることから、宮城県などの協力で人手が不足している避難所や近くの宿泊施設など最新の現地情報を集約し、ボランティアに提供する。



トイレや風呂などがセットになったユニットの模型（福永博建築研究所提供）

トイレ風呂ユニット 援助へ協賛企業募集

福岡の建築研究所

福岡市中央区の福永博建築研究所は、東日本大震災の避難所の水洗設備として、井戸・風呂・トイレ・浄化槽と汚物乾燥機を1セットにした上下水道の自己完結型ユニットを製作しており、送るための協賛企業を募集している。

トイレや風呂のユニットは海上輸送用のコンテナを利用して組み立てるため、現地で大がかりな工事が必要としないという。水は各避難所に井戸を掘ってポンプで送り、トイレや風呂で使った後の汚水は浄化槽で処理する。

避難所1カ所で1日延べ500人の利用を想定すると、1日75㎡の固形汚物が生じるが、避難所10カ所ごとに汚物乾燥機1基を置けば、汚物を乾かして焼却処理することができる。

設置費用は1ユニットで約1480万円。同研究所では「被災地では上下水道の復旧が進んでおらず、避難所生活ではトイレや風呂などの環境が悪化している。衛生を保つことは最低限の生活のためにも早急に必要な」としている。協賛などの問い合わせは同研究所（☎092・714・6301）。

東日本大震災の被災企業支援に向け、兵庫県養父市は、廃校となった市内の小学校施設や遊休状態の宿泊施設を無償提供し、補助金も支給すると発表した。企業の生産・物流拠点や社員住宅として活用できるとしている。

被災企業の新たな拠点として提供されるなかま荘（旧町営温泉施設）—兵庫県養父市

被災企業

